

地球憲章総会

2017年1月28日15時より

コープオリンピア506号室

出席者: 広中(地球憲章アジア太平洋日本委員会代表・元環境庁長官)、廣野(成蹊大学名誉教授)、竹内(名古屋大学教授)、松下(京都大学名誉教授)、功刀(元国連事務総長特別代表)、堀内(地球憲章国際評議会委員・アジア女性交流・研究フォーラム理事長)、久山、高橋、坂東(昭和女子大学理事長)、小池(国連クラシックライブ協会理事長)、林(中部大学教授)、サンチェス(沖縄中学校教師)、金子(テンプル大学ジャパンキャンパス会長)、木全(永井研究室)、比嘉(NHK)、川辺(サンチェスさん関係) (敬称略)

司会: 竹内

撮影: 吉川 書記: 岩崎

1. 一年を振り返って(広中)

2. ブループラネット賞応募について(松下・功刀・広中)

ブループラネット賞・・・旭硝子財団が、地球サミットが開催された1992年に創設。地球環境問題の解決に向けて著しい貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞。

地球環境のノーベル賞といわれている。ノミネーターにより推薦され、6月発表。賞金5000万。

“地球憲章インターナショナル”で、応募し、推薦人として、ロックフェラー、ルベルス(元オランダ首相)、松浦元ユネスコ事務局長、功刀、広中、松下。審査委員長は、林良博氏。今年の実践的なものと理論的なものと選ばれている。地球憲章の特にPARTIVの重要性を認められたい。結果ダメでも、応募自体が広報となり、また来年も努力する。

3. 地球憲章本部の活動(堀内: 国際評議会の委員)

2015年は、15周年記念として、オランダで大きなイベントがあり、メキシコでも大学と共同のイベントなどがあった。

2016年そして、現在、まず、広報の重要性がある。教育、研修を中心にやっていく。

○課題・・・財政的、組織的に不十分。組織としては、①事務局(コスタリカ)②ECI③ECA(アメリカのNGO)となり、②③が検討されているが、今まで通りの仕事の継続を意見として述べてきた。地球憲章には、40ぐらいの個々の組織があるが、ネットワーク型としての運営である。

○新しい動き・・・本部が、国連の社会経済理事会(ECOSOC)のNGO協議資格を得たので今後国連との協力体制ができる。

【関連意見】

* 地球憲章は、理念であり、哲学であり、次元を超え恒常的にあるもの。SDGsは15年間という時限立法であり、数値目標をもつもの。地球憲章がベースとなる。

* 地球憲章は教育研修に力をいれている、これは、まさにSDGsのNO4につながる。

* 地球憲章を広める、国民が支援するためには、大衆運動とならなければならないが、ネットワークをどう動かしていけばいいのか。

* 広報の一つとして、身近にかんじられるように、“地球憲章の考えに沿った人や団体を表彰する”というのはいかがでしょうか。

* 企業の中で活動してきたが、数値目標が目的になってしまい、哲学がない。地球憲章は、哲学として確立していく時期。

* 地球憲章本部は、まず、アクションをどうやって行くべきかを決めてから、資金や組織を考えていくべきではないか。日本からどう本部に働きかけるか、そして、国内でどう行動していくか。

* 世界各国の運動をサポートしていくこと。

* 地球憲章の考え方を、政府の政策のチェックリストとして使うシステムができれば、広がっていく。

* ユネスコスクール(ESDの活動のとき、数がふやした)で、環境に興味のある学校は9割にも及ぶ、そこに資料を送っていく。

* 環境だけでなく、平和、貧困など広げていく。

4. 地球憲章ミュージカルの活動(小池)

環境ミュージカルを始めて17年間、約85回、問題意識のない若者たちへ、今ある現実と未来の地球への責任を広めることができた。海外公演も10回となり、日本人から世界への提言をするいい機会となった。公演は、びわ湖ホールや人見記念講堂でのオーケストラ付きから、中学校の講堂まで、いろいろな形が可能である。今年は、国内公演を地球環境基金に申請し、新たに災害バイオハザードの視点を取り入れ、四国から福島そして10月にNY国連本部公演へとつなげて行けたらいいと思っている。

【関連意見】

* 毎回毎回、内容がよい。

* ミュージカルという心に訴える芸術を通しての活動は、インパクトがあり、今後も期待している。

5. 国際平和映像祭への参加報告(久山・功刀)

主宰する関根氏から「地球憲章賞」を追加したい旨の提案に同意し、まんが地球憲章を教材として使ってほしい、という宣伝をしてもらった。

6. 地球憲章漫画の将来(功刀)

まんが地球憲章の残部は無く、急速に変わる情勢に対応して改訂版を作成するのも不可能である。よって、1,2年に1回、その時のテーマを取り上げ、2から3ページの冊子で対応していくことを提案。(詳細は配布資料参照)

【関連意見】

* 国連大学でのあらゆる会議の時、おいてもらったり、配ることを提案。2月5日外務省主催の「SDGsについて」の会議がある。

7. ローマクラブとの連携の可能性(林・サンチェス)

日本のローマクラブ会員、小宮山、野中ともよ、林。ローマクラブEU、ベルギーとともに活動できたらいい。

【地球憲章俳句の提案】(サンチェス)

・小学5年生から、俳句学習が始まる。外務省とEUで、「日EU英語俳句コンテスト」が2010年から開催され、元ベルギー首相ロンパイ氏が熱心。地球憲章の俳句大会を開催したらどうか。

・俳句は日本ならではの文化。小学校に導入されることにより、先生方も地球憲章を勉強し、子供たちも考えて行く機会になる。継続していくことが大切。

- ・沖縄、来年度の教育計画の案でもいいから、入れてもらい、活動につなげたい。
- ・SDGsも17、俳句も17文字、興味をつなげたい。
- ・有馬朗人元文相(天声人語によると、俳句をユネスコ無形文化遺産登録を目指す発起人でもある)にアポを取り、ご意見を伺うことにする。(サンチェス、金子同行)

8. 地球憲章と日本共生科学会(高橋・松下)

昨年年次学会での発表が論文として、春に特集号がデジタル版で出る。広中(地球憲章について)、松下(パリ協定)、永井(熱力学と〇〇)、高橋(SDGs)。

年次総会終了後、SDGs研究部会をNGOメンバーが立ち上げ、そこに地球憲章もはいる、インターネットで参加し、活動していく。

【関連意見】

- * アジアの憲章として、次の時代の準備を見据え、アジア諸国に広げていけたら。

9. これからの世界と地球憲章(廣野)

アメリカにトランプ大統領が登場、TPP、パリ条約、核保有、今までのすべてに、反対している。

【関連意見】

- * ツイッターが政策なのか、内容を政策としてできるかは予算上のこともあり疑問。
- * 政権に入った人の話によると、“トランプの次の仕事を考える、つまりトランプの今のことをすると次はない”
- * 二国間でやろうとしている。世界銀行、国連、国際的NGOは、どうなっていくのか。
- * 民間企業はなびくかもしれないが、国際的NGOは、信念・主張があるので、応援する政府が出てくるだろう。短期的には、マーケットは動き、影響力もあるが、地球憲章としては、やるべきことを長期的にやっていく。
- * 2050年までに世界の平均気温が2度超えるといわれている、それまでに何をやっていくか、哲学である地球憲章が重要な武器であり、あらゆる手段を使って、それか漫画でありミュージカルであり、インターネットであり、それにより大衆運動として広めていくことが大事である。